

大阪大学図書館報

Vol. 5, No. 6, Dec. 1971

情報流通機構の中の図書館の未来像

木 澤 誠

図書館の規模を表示するのに蔵書数がよく用いられる。何万冊とか何十万冊とかいう数値が誇らしげに語られる。それはそれでよいが、図書館としてもう一つ考えなければならない重要なことは、その図書館を利用する情報を、どのように敏速適切に利用者に供給する能力があるかということであろう。

とりわけ、科学技術の世界では、たとえば全世界の専門雑誌に発表された関係論文を洩れなく早く知りたいという要求がある。図書館が真に情報流通機関としての責務を果たそうとするならば、この要求にも応じ得ることが望まれる。

しかしながら、図書館を従来のまゝの状態にしておいてこの要求が充足されるわけではない。それには、情報流通機構の中の一員としての重要な任務を自覚して図書館の未来像を画き、その方向に一步一步進んで行くことが必要であろう。

そして、その具体的な手段として、出来るだけ少ない人力によって出来るだけ大きい効果をあげるために、広い意味の機械技術（電子工学や応用光学なども含めて）の成果をいかに導入するかという問題がある。

去る11月4日、筆者は折あって米国MIT (Massachusetts Institute of Technology) を訪れ、そこで進められている Intrex (Information Transfer Experiment) 計画の実状を見学した。Intrex というのは Prof. C. F. J. Overhage を director として1965年から始められた半実験的情報検索システムで、これよりさき Prof. M. M. Kessler らによって開発されていた TIP (Technical Information Project) をさらに拡張したものと考えられる。

Intrex のシステムにおいては、原論文の書誌的事項や内容要約などを収めた二次情報 (catalog information) を端末のタイプライタやブラウン管ディスプレイ装置より遠隔操作して検索することができるだけでなく、マイクロフィッシュに収めた原文をも遠隔操作により検索して端末のブラウン管ディスプレイ装置で読み、さらに必要ならば35mmのフィルム複製を作ることのできる機能を備えている。用いられている電子計算機は 32k × 2 の記憶容量をもつ IBM7094で、いわゆる時分割多重アクセス方式と、ブラウン管による文字ディスプレイ装置とが最大限に利用されているが、このシステムの注目すべき特徴としては、マイクロフィッシュの自動検索装置と、その画像の飛点走査方式による伝送技術とが開発され、かつこれらが巧みに従来の電子計算機技術と組合せられて情報検索システムに活用されていることであろう。

新たに開発されたマイクロフィッシュ自動検索装置はCARD (Compact Automatic Ret-

rieval Device) と名付けられ、各750枚のマイクロフィッシュを収容する装置が2台備えられている。各マイクロフィッシュの一縁にはそのアドレスを示すコードを切欠いた板が取付けられ、その対辺を中心軸の近くにこれと平行にして放射状に収容されている。検索信号が与えられると、この放射状に配置されたマイクロフィッシュ群(カルーセル)は中心軸のまわりに回転し、コード板の切欠きによって所要のマイクロフィッシュが選択されるとこれがつまみ上げられ、さらに所要のコマが光学系の正面に面する位置にまで持って来られる。その間わずか5秒ほどである。そのコマの画像は2,000本の走査線により飛点走査され、その信号が同軸ケーブルによりディスプレイ装置やフィルム複製機に伝送される。しかし現在のところブラウン管の解像度が800本程度であるため、ブラウン管ディスプレイ装置はざっと見る目的に用いられ、精読のためにはフィルムを複製してフィルム読取器またはこれから作られるハードコピーを利用するように構成されている。

Intrexの端末装置は現在のところ学内の4個所に設置され試用されている。そのうちの一つは図書館(Barker Engineering Library)内の閲覧室に近い一室にあり、午後の定められた時間には誰でも使えるようになっていて、かつ利用者に使用経験による意見を求めている。現在ここに収められている文献は電気、機械、土木、海洋、材料などに関する1,200種の雑誌から採録された約15,000件で、採録には28人の職員が当たっている。

Intrexの指向するところは研究用情報源としての図書館の将来のあり方に大きな示唆を与えるものであろう。われわれが理想的な情報検索システムに求めるものは、いどこにいても常に忠実にわれわれの知りたいことを答えてくれる機能である。情報処理機械の最近の技術は、すでにこの理想に近いことを実現しうるまでに至っている。その実現化を促進するものは、図書館の機能に対して確固たる未来像をもつ情報利用者からの熱望であるのではないだろうか。

(基礎工学部教授)

第45次国立七大学附属図書館協議会要望書を文部大臣に提出

第45次国立七大学附属図書館協議会が、さる9月22～23日に、本学において開催され、国立七大学が当面する諸問題を協議した結果、学術情報の円滑な流通利用が急務となっている今日、このことの緊急かつ重要性にかんがみ、次の5項目について、文部大臣に要望した。

〔要望事項〕

1. 大学図書館間における学術情報流通強化について
 - 地区情報センターの基礎づくりのために
 - (イ) 図書館業務の機械化促進について
 - (ロ) 基本参考図書(書誌、索引、抄録、所蔵目録、年鑑、統計書等)の整備充実について
 - (ハ) 情報管理要員の新規増員とセンター運営経費の新規計上について
2. 参考業務担当職員の増員ならびに図書館職員の定員削減率の低減および図書館維持費の増額について
3. 指定図書購入費の配当促進について
4. 大規模分館におく事務主任(業務主任)の4等級格付について
5. 特別図書購入費による購入図書一覧表の作成配布について

関本学館長は松田東大館長とともに、11月5日午後、これらの事項をとりまとめ説明を付した要望書を文部大臣に提出した。また、村山事務次官、井内官房長、望月人事課長、須田会計課長、木田大学学術局長、安養寺・犬丸両大学学術局審議官、吉田庶務課長等にも要望書の写を提出し、古市情報図書館課長には要望の趣旨を詳細に説明した。

機械化ワーキング・グループ 経過報告

第18回 46.11.1(月)

システム変更点

雑誌コード：主コード9(5)およびサブコード9(2)に分ける。

主コードは「大阪大学学術雑誌目録・欧文篇1969」のシーケンシャル・ナンバー4ケタを10倍する。

サブコードはセクション・シリーズタイトルを表わし、それのない場合は00を入れる。

チェックバイトは9(1)とし、ロシア語の雑誌は9万台の主コードを与える。

誌名変更：巻号を継承するものは現誌名のもとに、継承しないものは旧誌名のもとに残して記入する。

発行国コード：国会図書館が「欧文逐次刊行物所蔵目録1968」で使用しているものを採用する。今後の予定

システムを変更するときまたは新たな事態が起こったときは、そのつど開く。

学生希望図書一本館一

昭和46年11月1日現在、受入済みのもの
西ドイツの憲法と政治 W・アーベントロ
ート 村上淳一 訳 東大出版会
現代日本における政治態度の形成と構造
日本政治学会 編 岩波書店
訴訟物論集(北海道大学法学部叢書2)
小山 昇 有斐閣
菊と刀(完訳)一日本文化の型一 ルース
ベネディクト 長谷川松治訳 社会思想社
爆発する宇宙 一アポロ以降の天文学一
ナイジェール・コールダー 小尾信弥 訳
朝日新聞社
忘れられたページーフランス近代文学点描一
井上究一郎 筑摩書房
吉岡 実詩集(普及版) 思潮社
海外留学あなたの番 蛭川 譲 二見書房
終わらざる時の証しに 葉山修平
ニトリア書房
集合・位相入門 松坂和夫 岩波書店
透谷全集 全3巻 北村透谷 岩波書店
化学論文を英語で書くための化学英語の活用
辞典 千原秀昭 化学同人

羅針盤のない旅行者 C・モルガン
石川 湧 岩波書店
直言、そして考察 一今日の政治的関心一
田中美知太郎 講談社
エジソンの生涯 マシュウ・ジョセフソン
矢野 徹 訳 新潮社
緑色革命 C.A.ライク 邦高忠二 訳
早川書房
ははのくにとの幻想婚(森崎和江評論集)
森崎和江 現代思潮社
白鳥の歌なんか聞こえない 庄司 薫
中央公論社
そなた・こなた・へんろちょう 野口幸助
音楽之友社
夜と霧(フランクル著作集1) フランクル
霜山徳爾 訳 みすず書房
荒地を旅する人たち 加賀乙彦 新潮社
デンジョンテーブルによるプログラムフロチ
ャート 清田 進 日刊工業新聞社
電磁気 上,下(パークレー物理学コース)
パークレー 飯田修一 監訳 丸 善
スキー教室程 全日本スキー連盟 編
スキージャーナル社

教官著作寄贈図書

- | | |
|------------------------|---------------------------|
| 一本 館一 | S.46 医歯薬出版 |
| 大竹 伝雄 (基工 教授) | 小塚隆弘 (医 講師) |
| 寺西士一郎 (ク ク) | 心疾患のレントゲン診断 S.46 南山堂 |
| 化学熱力学 一演習によるアプローチ | |
| S.46 東京化学同人 | |
| 今堀宏三 (教 教授) | 一吹田分館一 |
| 新体系の生物学 S.46 広川書店 | 加藤健三 (工 教授) |
| 系統と進化の生物学 S.46 培風館 | 冷間ロール成形 S.46 日刊工業新聞社 |
| 岸本通夫 (教 教授) | 増渕正美 (工 教授) |
| ユーラシア語族の可能性 (神戸学術叢書 1) | 最適制限入門 S.45 オーム社 |
| S.46 神戸学術出版 | プロセス制御系の設計 Young, A. J. 著 |
| | 増渕正美 訳 S.43 コロナ社 |
| 一中之島分館一 | 一理学部図書室一 |
| 蒲生逸夫 (医 教授) | 中岡 稔 (理 教授) |
| 新しい小児科診断学 S.46 金原出版 | 位相数学入門 (基礎数学シリーズ 23) |
| 阿部 裕 (医 教授) | S.46 朝倉書房 |
| 新薬の副作用と処置 S.46 薬業時報社 | |
| 七川敬次 (医 助教授) | 一基礎工図書室一 |
| リウマチ病 S.46 永井書店 | 大竹 伝雄 (基工 教授) |
| 中川米造 (医 助教授) | 寺西士一郎 (ク ク) |
| 医学・歯学教育改革の指針 | 化学熱力学 一演習によるアプローチ |
| | S.46 東京化学同人 |

本館受入参考図書

- | | |
|--|-----------------------|
| 10・11月に受入済みのもの | 法律用語の基礎知識 有斐閣 |
| 国際学術団体要覧 1971年版 日本学術会議 | 日本教育年鑑 1971 日本教育新報社 |
| 雑誌総目次索引集覧 天野敬太郎 編 | 日本薬局方 第一部解説書 1971 |
| 明治前期学術雑誌論文記事総覧 渡辺正雄 編 | 薬学用語辞典 日本薬学会 |
| Le catalogue de l'edition française 1970 | 環境公害文献集 1, 2集 |
| vol. 1~4 | 日本科学技術情報センター |
| 全日本出版物総目録(44年版) 国立国会図書館 | 数値計算ハンドブック オーム社 |
| 新中国年鑑 ('70) 中国研究所 編 | 化学工業ハンドブック 1971年版 |
| The International Who's Who 1971~72 | 国語年鑑 (45年版) 国立国語研究所 編 |
| 34th ed. | 漢字語源辞典 藤堂明保 学燈社 |
| 大日本地名辞書 第4巻 富山房 | 西洋音楽史年表 |
| 日本国勢図会 1971 国勢社 | アルノルト・シェーリング編 皆川達夫訳補 |
| 索引政治経済大年表 東洋経済新報社 | 音楽之友社 |

大学図書館職員講習会に参加して

さる10月26日～29日、昭和46年度大学図書館職員講習会があり、第2会場名古屋大学への参加者は阪大で4名でした。科目は①大学図書館の使命 ②非図書資料 ③切抜資料 ④視聴覚資料の収集・整理・利用法 ⑤レファレンスサービスと2次資料の利用法 ⑥大学図書館における情報機器。参集者は大学、短大、高専を含め150名位で、関西以西、東北以東の大学を除き、また関東は少しという範囲でした。

講義についてですが、概要はテキストにまとめられていますので、以下は中之島図書館のような一館員が受けた全体の印象として書きとめました。

中之島図書館が、幾分主題の限られた(医学・生物系)、そして利用と運用についてやや研究図書館的な性格も合わせもっているのが、全体のカレントな状況の話題の中には示唆もあったかと思えます。一方では、各主題分野の学科図書室から(古文書を主として扱われるところから)、総合図書館、短期大学と多様性に富んでいる図書館活動の従事者各位にはいかがだったか。尋ねてみる自由討論時間がありませんでした。

講義は、一般的には 1)大学図書館の中で収集される資料の多様性と利用を支えるその包括性 2)利用の〔仕方の〕多様性とレファレンスサービスの結びつき 3)それらの多様性を生かしていくことの出来ない職員数の不足と業務の増大。それらの一策としての側面をもつ機械化があらわれているようすはうかがえますが、なお次のような基本的な枠組の検討・評価も必要であったと思います。第1に大学の総合系図書館と中規模のある主題分野の図書館のしごとのあらわれの一面は、これまで言われているようにそれぞれ独自性があり、もう一面に共通にかなり本質的な図書館観につながる問題があるようですし、第2に既にあるといわれる主題分野の図書館間の協力も、境界分野の拡大していく今日、資料の公共性を確信する図書館間のオープン・システムが望まれます。こうした基本的なところへの講習科目の係わり方も鳥瞰し、追及できるような組み方がほしいものです。

これからがむずかしいのですけれど、一館員としては、利用者の、そしてわれわれの独自性、多様性を自館から、同系図書館間協力を基礎に、より広く館種をつないでうらづけられるようでありたいと思います。

■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■ 会 議 ■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■■

——国立七大学附属図書館協議会——第45次——

46.9.22(水) 9.50~17.00

46.9.23(木) 9.20~12.00 於 阪大待兼山会館

本学出席者 事務部長 整理課長 開覧課長

第45次(昭和46年度)国立七大学図書館協議会は、大阪大学を会場館として9月22日から9月23日まで開かれた。協議会に先だって前日の21日に第4回部課長会議が開かれ、①職員定員の現状と今後について ②「学術雑誌総合目録」の今後における刊行計画について ③教育課程文庫について ④特別図書について ⑤ユネスコ総会採択の「図書館統計の国際的な標準化に関する勧告」について討議が行なわれた。協議会は翌日の22・23の両日にわたって行なわれ、当番館の阪大関館長が議長となり、次の協議題について終始熱心に行なわれた。

〔協議題〕 1. 指定図書費について 2. 大学図書館改革の基本問題について(各大学とも図書館改革については、不充分であり引きつづき検討する) 3. 職員数と業務量増大に対処する具体的方策について 4. 特別図書費で購入した資料のリストを交換することについて 5. 図書館職員を定員削減の対象より除外するよう要望する件について 6. 大学図書館間の情報流通体制の強化とN I S T計画について(N I S T計画は現段階としてはまだ充分具体化されていないので、将来さらにこれの検討が進んだ時点で、七大学としてその具体化について研究する) 7. 大規模分館事務主任(業務主任)の格付けについて(4, 7の協議題については、前日の部課長会議で充分討議されており、本協議会では部課長会議の議長から、その概要が報告され若干の質疑応答があったことにとどまった。

〔要望事項〕 ①大学図書館間における学術情報流通の強化 ②参考業務担当職員の増員ならびに図書館職員の定員削減率の低減および図書維持費の増額 ③指定図書購入費の配当促進 ④大規模分館におく事務主任（業務主任）の4等級格付 ⑤特別図書購入費による購入図書一覧表の作成配布等を文部省に要望することになった。

〔次回当番館〕 47年度の第46次協議会の当番館は九州大学に決定した。

——七大学図書館会計事務打合せ会——

46.10.28(木) 10.30~19.00 於 京大楽友会館

本学からは、田保橋閲覧課長、本田会計掛長、浅野受入掛長が出席し、前号既報のとおり、京大、阪大間で検討した問題点について ①図書の購入・受入 ②外国雑誌の購入・受入 ③図書の管理 ④図書の製本 ⑤文献複写収入 と各項に分けて田保橋課長の司会で検討を加えた。それぞれの項目について各館の実情を紹介し、ついでこれらの処理の簡素化方策を検討し、さらに図書館だけで解決のつかない大きな問題について法改正にまで発展させるにはどの点をどう改正すべきかについて討議を進めた。

ついで緊急テーマとして、「円変動為替相場制下における図書および1972年度外国雑誌の購入について」各館の書店との交渉経過の承合があり、このことについては、今後も相互に情報交換を密にすることを申し合わせた。

——西部地区印刷カード利用館との懇談会——

(国立国会図書館主催)

46.10.14(木) 13.30~17.00 於 阪大松下会館

国立国会図書館の酒井連絡部長および三塚連絡部図書館協力課長、ならびに中部・近畿・中国・四国・九州地区の印刷カード利用館から42名が出席、下記議題について懇談した。

〔議題〕 ①印刷カード作成方式の変更について

②印刷カード頒布方式の変更について

④印刷カードの排列の変更について

⑤主類別、主網別頒布の廃止と国立国会図書館分類表の15区分による頒布について

⑥印刷カード速報の刊行と選択注文方式の変更について

——近畿地区国公立大学図書館協議会

「参考図書に関する委員会」——

46.10.6(水) 10.30~17.00 於 神戸市外大

〔議題〕 ①「参考業務に関する研究集会報告」のまとめについて：これについて検討を行なったが、参考掛をもっている大学と他の大学との差が見受けられた。

②今後の方針について：「参考図書の選択」を中心に、次回に検討することになった。

——近畿地区国公立大学図書館協議会

「受入業務に関する研究集会」——

46.10.26(火) 10.30~16.00 於 阪大松下会館

従来、このテーマでの研究集会はなかったためか、加盟各大学から出席申込者65名全員が出席した。午前中、阪大浅野受入掛長が、阪大における受入業務の省力化について ①システム化 ②集中化 ③標準化に焦点をしばって報告し、午後は、大阪市大辻受入係長から ①原簿のマイクロフィッシュ化 ②装備の簡略化 について報告があった。ついで国立側：田保橋阪

大閲覧課長、公立側：梶神商大事務長の司会で討論に入り、①原簿の果たす役割と簡素化 ②受入のフローチャート ③備品・消耗品の区分 ④図書の廃棄 などについて2名の報告者への質疑も交じえて討議した。

——分館長会議——

46.11.20(土) 13.30～15.30 於 館長室

①昭和47年度学内図書館事業費および運営費要求の基本方針 概算要求については、早い時期に分館長会議にかけて審議する。来年度の図書館運営費予算要求は、本館で分館運営費全額を含めて一本化するか、あるいは従来の方法で不足分は受益者負担とするか、について話し合いが行なわれたが、早急に結論を出すのはむづかしいので、本館で一本化の理由、および一本化によるプラス、マイナスについて試案を作成し、それを各分館の運営委員会で検討することになった。

報告事項：①国立七大学附属図書館協議会報告 ②研究閲覧棟小委員会経過報告 ③一貫教育における図書館の役割り ④学生生活実態調査のアンケートの集計報告（閲覧室の拡大。専門図書の増加。閲覧室BGMの中止。開館時間の延長等）

——理学部図書室運営委員会(第19回)——

46.9.18(土) 10.00～12.00 於 化学系会議室

①Deposit 図書の選定について：各学科よりリストが提出された。このうち、研究分野の重複するところもあるので再検討することとなった。②昭和47年度購入雑誌について：Microchimica Acta を購読中止する（化・高分子学科）。Chemical Abstracts 8th Collective Index を2600ドルで予約したが、この経費については今後検討する。③図書費の中間報告：学生用図書・参考図書の購入希望リストを提出する。

——基礎工学部図書委員会——

第19回 46.9.14(火) 15.15～16.15 於 中会議室

第20回 46.9.29(水) 15.00～16.15 於 //

①図書委員長交代：難波委員長の任期満了に伴い、新委員長に大塚教授を選任。②昭和47年度購入雑誌について：(第19回)一①毎年雑誌購入費が増加している。一方予算面の制約もあるので、利用度の低い雑誌および本館でも購入している和雑誌は中止する事も考えられる。図書室で資料を作成し再度検討する。②共通経費で購入している雑誌を学科別に分けた場合、バランスはほぼ保たれている。③図書資料の相互利用により重複購入をさける。そのため複写利用の手続きを簡略化すべきである。(第20回)一①新規購入 各学科より提出された新規購入希望雑誌のうち、豊中地区の他部局に所蔵しかつ利用できるもの、および新刊雑誌で発刊後1年未満のものを除いて購入する。②中止 他部局にあって利用できる一般和雑誌および殆んど利用されないものは中止する。

——開架図書選択委員会—第2回——

46.11.18(木) 10.00～12.00 於 本館会議室

①学生希望図書のうち「本因坊戦全集 全8巻 30,400円」は高価なうえレジャー的すぎるので学生部に申送ることにした。②クラシック・レコードを開架図書費で購入することの可否は次回までに福場委員と図書館側で検討する。③次回は2月3日(木)10.30～12.00の予定 ④今回選択額は、教官推せん図書20千円 学生希望図書97千円、汚損更新図書108千円、図書館推せん766千円、計991千円。

《お知らせ》 研究閲覧棟小委員会 “研究者閲覧スペースの利用に関する小委員会” を左記の名称に決定した。また委員の交替と決定があった。

委員 大野 教授(経) (福場教授と交替) 委員 久我助教授(社研)



マイク 住所変更届のお願い (本館カウンター)

明年4月より電算機による貸出業務を実施する予定で、現在各種のデータ整理を行なっています。その一つとして利用者の氏名・住所・郵番をMT (Magnetic Tape) に記録し、自動的にハガキによる各種の連絡、図書返却督促状を作成する準備を進めています。このため、住所(町名)変更された方は至急カウンターに届けて下さい。

吹田分館「Library News」創刊

新たに本学の図書館ニュース誌として吹田分館より「Library News」が刊行された。内容は図書館の各種サービス案内、新着図書案内、運営委員会報告等利用者に関係のあるものを主体に編集されている。刊行頻度は年10回程度で、発行を特に指定しないで必要に応じ刊行するユニークな形をとっている。また発行部数は500部を予定しているが、内容に応じ増刷するなど利用者へのPR誌として十分な配慮がなされている。配布先は学内関係機関はもとより全国工学系図書館に送付される。なお本学図書館のニュース誌は 大阪大学図書館報：本館隔月刊 創刊 42年9月、NAKATO NEWS：中之島分館 月刊 創刊 41年1月、Library News：吹田分館 年10回 創刊 46年11月

日 程

- 10月14日(木) 国立国会図書館主催「西部地区印刷カード利用館との懇談会」(大阪大学松下会館4階講堂)
- 10月26日(火) 近畿地区国公立大学図書館協議会「受入業務に関する研究集会」(同上)
- 10月28日(木)～29日(金)「図書館会計事務打合せ会(国立七大学)」(京都大学楽友会館)
- 10月28日(木) 国立大学図書館協議会「司書職制度調査研究班第22回全体委員会」(東京大学)
- 10月29日(金) 国立大学図書館協議会「第8回大学図書館国際連絡委員会および第5回総務委員会」(同上)

人 事

来 訪 者

10月29日(金) 坂部文子 文部省大臣官房統計課編集広報係長

訂正 前号5ページ「教官著作寄贈図書」のなかで、小谷恒之(理・教授)は、(教・教授)の誤りでした。お詫びして訂正します。

編集スタッフ 編集兼発行人 中野六郎 委員 田保橋 彬(長) 岩井 勇 松浦 正
 榎田順治 津田恭司 山下 進 泉 文雄
 レポーター 徳村泰弘 田中久文 町井照子 小山靖裕 篠田恭子 河崎戎三

大阪大学図書館報 Vol.5 No.6 通巻25号 昭和46年12月1日(隔月刊) 編集発行人 中野六郎
 発行所 大阪大学附属図書館 豊中市待兼山町1の1(☎560) 電話 068 (56) 1151 内線 2138